



練馬区立開進第一中学校

# 開進一中だより

平成30年度 第5号 平成30年9月26日発行

## 修学旅行から思うこと

校長 古山 真樹

毎年修学旅行に行くたびに外国人観光客の数が増えています。今年、台風の影響で関西国際空港が閉鎖中ということで、だいぶ中国や台湾、韓国からの旅行者が減っていたようです。いつもだと金閣寺の撮影ポイントや清水寺の参道などは東京の朝夕のラッシュ時のような混雑でしたが、今年はそれほどではありませんでした。しかしながら、今年年間三千万人の外国人旅行者がやってくる日本、観光立国化、グローバル化の進む世界の中で日本文化が注目されていることはうれしく誇らしいことです。しかし、そうした時代の推移と共に、残念ながら失われてしまったものがあります。それは「静寂」です。お寺の静かな佇まい、庭園の静けさがなんといっても魅力でしたが、今ではどこへ行っても人だらけ、賑わいばかりです。時にはけたたましい大声で会話し、スマホの自撮りで騒ぎ、嵐のように去って行く外国人もいます。お寺はアミューズメントパークではありません。神聖な場です。心静かに自分と向き合う場です。お寺でのマナー・エチケット、他者への気配り心遣いをしてほしいと願います。そうした中で、本校の生徒たちは落ち着いて行動し、気持ちの良い修学旅行となりました。今回はせわしない班行動だったかもしれませんが、またじっくりと静かに訪れて、スローガンにあった「和の心」を感じてほしいと願います。

最後に、修学旅行中、学校ホームページに速報を掲載したところ、三日間で5826件のアクセスをいただきました。保護者の皆様、ありがとうございました。

今月の一句

とぼどの ごろつき のわき  
鳥羽殿へ五六騎いそぐ野分かな

与謝蕪村

この俳句は、君たち中学生に一読して理解しなさいと言っても正直無理な俳句ですね。しかしこの俳句の究極の芸術性を知ってほしくて敢えて選びました。

まず季語は野分です。野分とは、野原を分けるように吹くすさまじい風、つまり台風のことです。もう情景が想像できますね。次に鳥羽殿。これは鳥羽上皇の離宮を言います。鳥羽上皇が住まいしているところです。「五六騎」は五、六人の馬にまたがった武者です。これで完成。つまり鳥羽上皇の住まいへ五六人の騎馬武者が吹きすさぶ風雨の中を急いで向かっているという場面です。これだけでも力強さ、勇ましさ、荒々しさが伝わってきます。しかし、「だからなんなの？」ですね。そこで歴史的背景を知ると、国家の一大事を予感させるような緊迫感が伝わってきます。平安時代末期、当時の朝廷は皇位継承問題で政略・抗争が繰り返されていました。そんな時、天皇の後押しとして君臨していた鳥羽上皇が病に倒れ、その後、保元・平治の乱へと突入し、平清盛が実権を獲得することになります。そういった戦乱を予感させる俳句です。

与謝蕪村は松尾芭蕉と並び称される江戸時代の俳人です。ですから実際に見た場面ではありません。想像の世界です。おそらく軍記物語にヒントを得たのでしょう。物語の挿絵のような世界です。台風の吹く風のすさまじさ、その中を騎馬武者が急いで馬を飛ばしている様子が画像・映像となって読者の目に浮かびます。馬の蹄の音まで聞こえてきそうです。野分と一体となってまさに風雲急を告げる場面、臨場感があり、読者を一瞬で軍記物語の世界へと導きます。見事な情景の組み合わせから俳句に時代性、社会性もたらせたと言えます。このような俳句を突きつけられると俳句の無限の可能性、そして素晴らしい総合芸術であることが実感できます。俳句史上に輝く最高の一句と言えるでしょう。

# 「和」を学び「輪」を広げ 古都でつくろう思い出を!



9月12日(水)~14日(金)の2泊3日、3年生は「京都・奈良」へ修学旅行に出かけました。今回、修学旅行実行委員長を務めた有馬弘一郎くんは、「実行委員と生徒全員で協力しながら修学旅行を作り上げました。友だちと京都・奈良の街を歩き、そして、今まで知らなかった京都・奈良を知ることができて、とてもうれしく思いました。宿舎でも男女問わず仲良く過ごすことができ、帰りの新幹線では、みんな明るい表情をしていたので、スローガンのとおり修学旅行は成功したと感じました。」と感想を語ってくれました。

3年生は、現在「修学旅行のまとめ学習」をしています。文化発表会での発表を楽しみにしています。

## 2年生 職場体験 9/12(水)・9/13(木)

実際に自分でつくったパンを見せながら職場体験終了の報告をする見付くんと大村さん



明るく元気に、そして真面目に取り組んでいました。受け答えの仕方など、非常にさわやかで好感が持てました。(サミットストア氷川台駅前店の方より)

2年生は、9月12日と13日の2日間で職場体験をしてきました。この体験を通して、働くことの大切さや苦勞を感じたことと思います。同時に、働くことの楽しさも感じたのではないのでしょうか。

今回、「サミットストア氷川台駅前店」で職場体験をした、班長の山本悠貴くんに職場体験の感想を聞きました。

今回は、日頃僕たちがお世話になっているスーパーマーケットで職場体験をさせていただきました。買い物をしているだけでは気づかないお店の裏側の大変さ、苦勞を知ることができました。また、目には見えない工夫が買い物を楽しく便利にしていることを実感しました。貴重な体験になったと思います。(山本 悠貴)



**仲町小6年生が本校を訪問してくれました**  
9月18日に仲町小6年生のみなさんが、本校を訪問してくれました。小学校とは違う中学校の授業をとても熱心に見学してくれました。体育館の集会では、児童のみなさんが中学校の先生にたくさん質問してくれました。とてもうれしかったです。ありがとうございました。